

「換金作物ガンビールの流通と消費に関する人類学的研究」

1. 研究の目的

本研究の目的は、インドネシアにおける換金作物ガンビールのブームがいかなる政治経済的条件のもとで生じてきたのか明らかにすることである。今回の発表では、輸出先のインドにおける消費活動に関するデータをもとに、ガンビールの流通とその変化について推測・考察する。

2. ガンビール・ブーム

ガンビール (Uncaria Gambir) とは、スマトラ島周辺原産のアカネ科カギカズラ属の植物である。葉からとれるタンニンが染料に使われたり、日本では阿仙薬と呼ばれ、正露丸の原料にも使われる。現在、インドネシアで生産されているガンビールの約8割は、「パンマサラ」 (Pan Masala) と呼ばれるインスタントのビンロウの原材料の一部としてインドに輸出される。

西スマトラにおけるガンビールの生産の歴史は長い。オランダによる植民地化以前からガンビールを生産していた。生産されたガンビールは、ビンロウに混ぜて使用するために中国へ輸出されたり、染料としてジャワ島やインドへも送られていた。ただし発表者の調査村落の人びとがガンビール耕作を始めたのは1996年のことであった。その後、ガンビールの買取価格は高騰した。これに刺激された人びとは、次々と森林を切り拓きガンビールの畑へと変えていった。

	1994年	1996年	1997年	2000年	2008年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1kgのガンビールの値段 (Rp.)	3,608	4,742	6,900	7,733	26,417	38,083	17,958	17,917	23,333	23,833	47,083	62,917
1kgのガンビールの値段 (USD)	1.67	2.02	2.49	0.94	2.74	4.18	1.92	1.72	1.95	1.79	3.53	4.66

表：ガンビール買い取り価格の推移 (出典：Badan Pusat Statistik Pesisir Selatan 1994-2018)

3. パンマサラとは何か

- パンマサラ ……ビンロウの実、カテチュ (ガンビール)、石灰、カルダモンなどを混ぜたもの
口に含んで5分から10分ほど咀嚼し、吐き出す
タバコの葉と一緒に購入し、自ら混ぜてから口に含む場合もある。
- グトゥカ ……パン・マサラとタバコの葉を混ぜた状態で売られているもの

いずれも1975年頃から流通している (Bhonsle, Murti and Gupta 1992)。それ以前は、パーン (ビンロウ、カテチュ、石灰などをキンマの葉で包んだもの) が主流であった。値段は17ルピー (26円) から5ルピー (8円) ほど。WHO (2010) によれば、インドにおけるタバコ使用者は2億7500万人いる。そのうち、1億6400万人がグトゥカなどの非喫煙タバコ (smokeless tobacco) 使用者、6900万人が喫煙者、4200万人が非喫煙タバコと紙巻きタバコ両方の使用者である。使用者の増加に伴って、生産量も増えている。非喫煙タバコ生産量は、3600万USドル (1993-1994) から1億4200万ドル (2000-2001) まで増加した (National Cancer Institution and Centers for Disease Control and Prevention 2014)。

4. 誰がどのようにパンマサラを使うのか

ニューデリー出身の30代の男性（タクシーの運転手）

彼は一日に4回ほどパンマサラをタバコと混ぜて消費する。基本的には食事などのあとに口直しのために使用する。また、これは夜寝る前に、一人でゆっくりとしたいときにも使う。夜に妻と性行為をする前にも使用することがある。良い匂いがするので妻も喜んでくれる。

カトマンズ出身の40代の男性（レストラン経営）

一日2回グトゥカを使用する。いずれも、食後。グトゥカ以外に、彼は一日1箱の紙巻きたばこも吸う。グトゥカを始めたのは、紙巻きたばこの量を減らすためであった。グトゥカがネパールで販売されるようになったのは2009年頃である。

5. ガンビール・ブームとパンマサラ

パンマサラにガンビールが多く使用されるようになったのは、2002年頃であった。それ以前は、インド国内で生産されている *katha* (*Acacia catechu*) と呼ばれるマメ科の植物の心材が使われていた。2001年には *katha* の生産に伴ってインド国内の森林が減少したため、代わりにインドネシアのガンビールを使用することが提案された (Sani and Sharma 2001)。

6. 考察

ガンビール・ブームの原因は、パンマサラの原料の変化であった。その背景には、嗜好品の「工業製品化」(高田 2004)により、手軽に使用することができるパンマサラおよびグトゥカの普及があった。パンマサラの消費量が拡大した結果、原料のひとつである *Katha* が不足してしまう。また、*katha* の生産は森林破壊につながるのでインド政府の規制を受ける。それゆえ、ガンビールがパンマサラの原料として使われることになったのである。ただし、2016年以降のガンビール買い取り価格の高騰に関しては十分に考察することができていない。今後の課題としたい。

7. 引用文献

Badan Pusat Statistik Kabupaten Pesisir Selatan

1994-2018 *Pesisir Selatan dalam Angka*, Painan: Badan Pusat Statistik Kabupaten Pesisir Selatan.

Bhonsle R. B., Murti R. B., Gupta S. D.

1992 "Tobacco habit in India" in Gupta P.C., Hamner J.E., Murti P.R. (eds.), *Control of tobacco-related cancers and other diseases*, pp.25-47, Bombay and Oxford: Oxford University Press.

Sani, P. L. and Sharma H. W.

2001 "Uncaria gambier -a New Source of *Katha*," *Indian Forester*, 127: 879-882.

National Cancer Institution and Centers for Disease Control and Prevention

2014 *Smokeless Tobacco and Public Health: A Global Perspective*, MD: Department of Health and Human Services, Centers for Disease Control and Prevention and National Institutes of Health, National Center Institute.

高田公理

2004 「嗜好品の比較文化」、高田公理・栗田靖之、CDI編『嗜好品の文化人類学』、pp.235-254、東京：講談社。

WHO

2010 *Global adult tobacco survey (GATS) India, 2009-2010*, New Delhi: Ministry of Health and Family Welfare.